

障害のある方たちが農業の現場で生き生きと活躍されている様子を動画で紹介しています



障害のある方でも農作業に取り組めるよう作業マニュアル動画を作成しました



### 農福連携に関するお問い合わせ

#### 岡山県農福連携サポートセンター

〒700-0807  
岡山市北区南方二丁目13-1 きらめきプラザ1階  
TEL:086-222-0300

#### 岡山県子ども・福祉部障害福祉課

〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目4-6  
TEL:086-226-7345

#### 岡山県農林水産部農産課

〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目4-6  
TEL:086-226-7420

#### 中国四国農政局農村振興部都市農村交流課

〒700-8532 岡山市北区下石井一丁目4-1  
TEL:086-224-4511



二次元コードから  
気になる動画を視聴できます  
(岡山県農産課ホームページ)

# 農福連携 取組事例集

## Ver.4



「農業」と「福祉」が  
つながって  
岡山を元気に!

岡山県・岡山県農福連携サポートセンター



# はじめに

農福連携は、障害者等の就労や生きがいがづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる取組であると注目されています。

農福連携の新たな取組や取組の継続のため、また、農業分野と福祉分野のお互いが Win・Win の取組とするため、岡山県内で実践されている農福連携の 6 事例について、取組概要や農福連携の効果・ポイントを中心に、事例集を作成しました。

農福連携の取組に関心をもつ農業者・福祉事業者をはじめとする皆様に参考としていただければ幸いです。

令和 6 年 3 月

## 目次

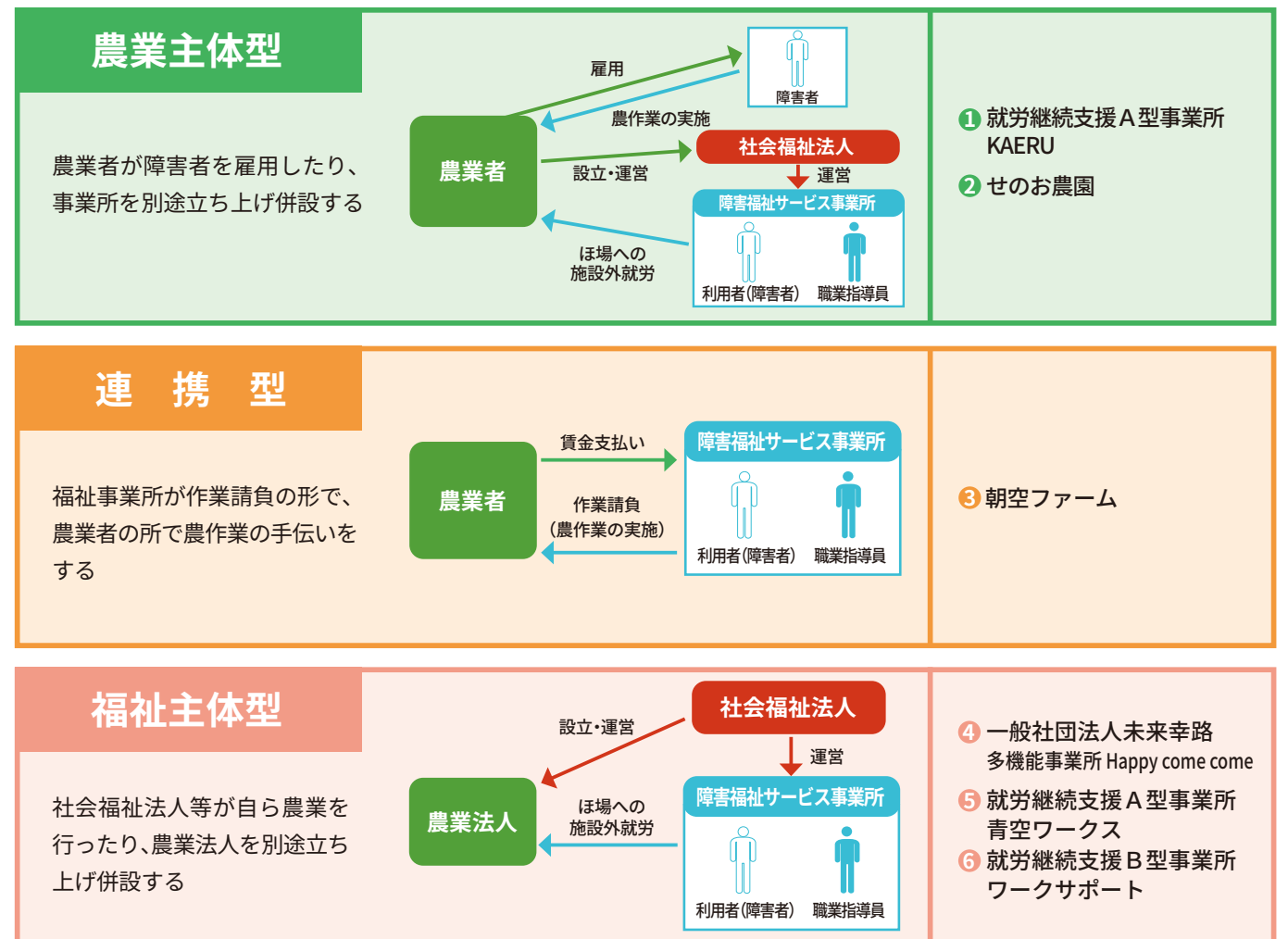
はじめに・目次	1
事例集の利用に当たって	2
<b>農業主体型</b>	
県内産農産物の生産・加工・流通の作業受託による周年就労の実現 就労継続支援 A 型事業所 KAERU (岡山市南区藤田)	3
農福連携による大規模施設花苗経営の確立 せのお農園 (吉備中央町上竹)	5
<b>連携型</b>	
福祉事業所と連携した農作業の見直しと作業マニュアルの作成 朝空ファーム (赤磐市西中)	7
<b>福祉主体型</b>	
笠岡湾干拓における高糖度イチゴのブランド化の実現 一般社団法人未来幸路 多機能事業所 Happy come come (笠岡市神島)	9
一般就労を目指した稲作・野菜・作業受託の取組 就労継続支援 A 型事業所 青空ワークス (津山市国分寺)	11
自然農法に取り組む農業者とともに歩む福祉事業所 就労継続支援 B 型事業所 ワークサポート (美作市福本)	13

# 事例集の利用に当たって

農福連携の取組内容は多種多様であり、取組数が増えるにつれて、取組パターンも多様化してきています。そのような状況下で、農福連携の取組主体等の違いにより、次の 5 つのパターンに区分されています。

- ① 農業者(法人含む)が障害者を雇用、または福祉事業所を別途立ち上げ併設する「農業主体型」
- ② 福祉事業所が作業請負の形で農業者を支援する「連携型」
- ③ 福祉作業所が農業に参入する「福祉主体型」
- ④ 企業が子会社を設置して農業分野で障害者を雇用する「企業出資型」
- ⑤ 障害者の身体・精神状態を良くするために、病院、NPO 法人等で農作業を行う「園芸療发型」

本事例集では、この 5 つのパターンのなかで比較的多くみられ、しかも「農業」での担い手不足の解消、「福祉」での就労機会の創出と工賃(賃金)の向上が直接的に期待できる 3 つのパターンの事例を対象としています。



注) 1. パターンは「農福連携技術支援者育成研修」テキスト(農林水産省)を参考にした。  
2. 事例調査はヒアリング調査に基づいて作成した。担当者は次のとおりである。  
農研機構・西日本農業研究センター 研究員 中本英里：④  
就実大学 経営学部 教授 千田雅之：③  
岡山県農福連携サポートセンター サポーター 坂本定禎：②  
岡山県農福連携サポートセンター アドバイザー 桑田和哲：①、⑤  
岡山県農福連携サポートセンター アドバイザー 村越好信：⑥

# 県内産農産物の生産・加工・流通の 作業受託による周年就労の実現

就労継続支援A型事業所 KAERU (岡山市南区藤田)  
https://ohisamakaeru.sakura.ne.jp/ap/

視察受入れ 可

## 取組の契機と経過

- JA全農岡山県本部OBが岡山県産の農産物や農産加工品の製造・流通を行う会社として2011年に創業した株式会社 岡山直売所ネットワーク(2023年つむぐ株式会社(以下、「つむぐ社」という)に社名変更)の業務拡大に伴い、雇用労力の安定的な確保が課題となっていた。
- つむぐ社の業務を福祉事業所に委託した経験があり、また、つむぐ社関係者に医療関連の実務経験者がいたことから、障害者の農業分野への参入による社会的な貢献及び労力の安定的な確保を目指して、2020年に一般社団法人 おひさまの恵を設立し、翌年、つむぐ社作業場の一部を利用して就労継続支援A型事業所 KAERUを開設した。
- KAERUでは、つむぐ社の業務に加えてJA全農からの受託業務にも積極的に取り組んでいる。2022年から「くだもの王国」ブランド戦略品目である「晴苺」のパックセンター機能を受託し、いちごの選別・包装作業を行っている。

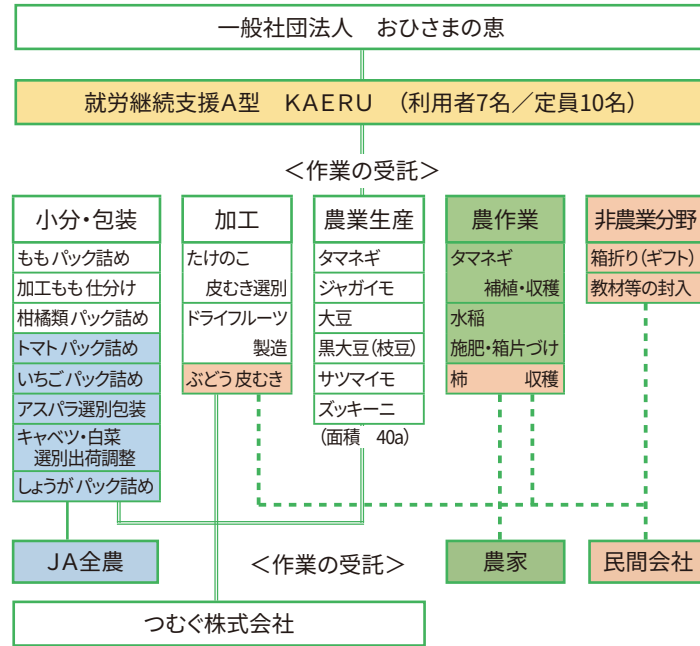


図 組織体制と主な受託作業

## 経営の概要と特徴

- KAERUでは、1) 小分・包装、2) 加工、3) 農業生産、4) 農作業及び5) 非農業分野の5種類の作業受託を行っている。1) 2) が業務量の7割程度を占めており、ぶどうの皮むきを除いて施設内で作業を実施している。3) 4) は1.5割程度で施設外での農作業に従事している。業務量が少ない時には、5) の作業を施設内で行い、その割合は1.5割程度である。
- 利用者はつむぐ社従業員と同じ作業場内で作業しているが、一般従業員と区分した作業エリアを設けている。利用者に精神的なプレッシャーを与えないように

配慮している。

- 「晴苺」のパック詰め作業の手順は、「選別⇒パック詰め⇒フィルム貼⇒箱詰め」である。その作業の難易度(注)は、選別1点(音声計量器の利用)、パック詰め5点(左右対称、傷んだ果実のチェック)、フィルム貼3点(張力の加減)、箱詰め2点(いちごの接触注意)である。このような農作業分析を行い、利用者の障害特性に応じて作業を割り振っている。注)「淡路式農作業分析(兵庫県立淡路景観園芸学校 教授 豊田正博)」の巧緻性評価(1~5段階、5が最高難度)



晴苺のパック詰め(事業所提供)



ぶどうの皮むき(事業所提供)



ももの選別(事業所提供)



柿の収穫(事業所提供)

- 一方、利用者には複数の作業が行えるように、マルチタスクな技能習得にも取り組んでいる。これは、利用者の体調変化や突然の休暇に対応したり、流れ作業で遅れが生じた際にはネックとなっている業務を応援することがねらいである。

- 小分・包装や加工では、指先を使ったきめ細かい作業、基準に従った仕分け作業が必要になる。マニュアル対応が可能であること、繰り返しの作業であることから、利用者が主体的に作業を行うことができる。

表 利用者が行う主な作業と年間スケジュール

作物	作業名	利用者の役割注2)	時期 (月)													
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
もも	パック詰め	◎														
ぶどう	皮むき	○														
柑橘類	パック詰め	○														
いちご	パック詰め	◎														
アスパラ	選果、結束、箱詰め	◎														
トマト	パック詰め	◎														
しょうが	パック詰め	○														
キャベツ、白菜	選別	○														
タマネギ	定植、除草、収穫、出荷調整	○														
非農業分野	箱折り	◎														

注1) 聞き取り調査、HP情報から作成した。

注2) 利用者の役割について、職員の関与レベルにより区分した。

◎:職員の指導により利用者が主体的に作業実施、○:職員の手助けを一部で受けながら利用者が作業実施

## 農福連携の効果とポイント

- 小分・包装や加工作業で取り扱う農産物には季節性がある。もも、ぶどう、柑橘類、いちごの順番でパック詰め等の作業を実施している。さらに、各種の農作業や非農業分野の作業を組み合わせることにより、年間を通じた業務量をほぼ確保している。
- 加工用ももの仕分け、ぶどうの皮むき、いちごのパック詰めなど岡山県産果実の付加価値づくりに貢献する取組は、利用者の働くモチベーションにもつながっている。また、これらの業務は、職員関与が相対的に高い作業も含まれるが、高い賃金確保に役立っており、月平均賃金は県平均を5%程度上回っている。
- ぶどうの皮むきは、9月から翌年2月まで果実加工会社に出向き、同社の職員に交じて作業しており、A型事業所における地域連携活動に位置付けている。同社からも、根気強く、丁寧な作業をしていると高く評価され、

- 利用者の一般就労につながる契機にもなっている。
- KAERUの主な業務として小分・包装作業があり、アスパラ、柑橘類、トマト、ショウガなど様々な農産物を取り扱っている。農作物が違っても重量調整のスキルには共通点がある。あるひとつの農産物での経験は、別の農産物にも応用可能であり、作業効率の向上に役立つメリットがある。
- 一般農家から作業を受託する際には、精神障害・知的障害者に対する配慮事項について理解してもらうようにしている。例えば、畝ごとの分散作業が効率的と思われるが、職員が利用者の状態を見守る必要があることからグループで作業することがある。また、利用者の体調や天候条件により作業量に変動があることから、作業日程にはゆとりを持った期間を設定している。



# 農福連携による 大規模施設花苗経営の確立

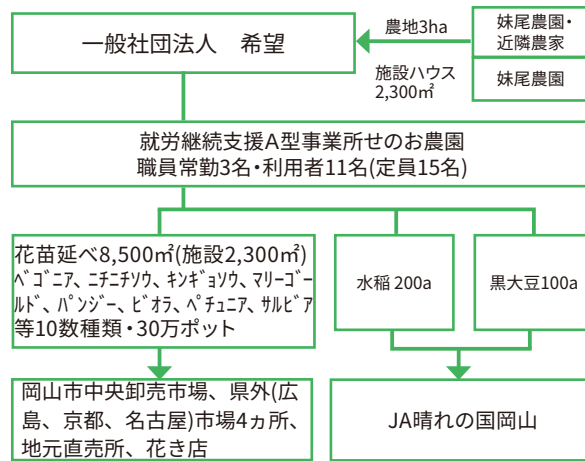
就労継続支援A型事業所 せのお農園(吉備中央町上竹)

視察受入れ 可

## 取組の契機と経過

- ①当農園の代表者は県外でサラリーマンをしていたが、実家の農業を引き継ぐために1989年にUターンをした。そして、約1,000㎡のビニールハウスを設置し、当時、収益性が高かった花壇用苗のパンジー、シクラメン等の栽培を試験的に開始した。併せて、1990年に近隣の社会福祉法人からの要請により、利用者の実習(2、3名)を受入れた。
- ②試験栽培の目的がついたため、1992年に町の認定農業者になるとともに、制度資金の借入れにより2,300㎡のプラスチックハウス(MMA)を導入し、パンジー、シクラメン等花壇用苗の施設栽培を本格的に開始した。
- ③2008年、花き組合(県内花苗生産農家10数名の組織)で、農福連携により花苗栽培をしている県南の農家を視察した。
- ④これらを契機に、行政等の助言・支援により、2012年に一般社団法人 希望を設立し、同年に就労継続支援A型

事業所 せのお農園を開設した。  
⑤農地は妹尾農園・近隣農家から、また、施設は妹尾農園から、一般社団法人希望が借りている。



## 経営の概要と特徴

- ①当農園は花壇用苗を基幹とした花苗2,300㎡、水稲2ha、黒大豆1haの大規模施設花苗複合経営であるが、年間販売額の約9割は花壇用苗となっている。
- ②花壇用苗は10数種類を組み合わせ、1回当たりの播種から出荷までの期間を約3ヶ月間とし、施設を年間3.5回転させて利用者の就労機会の拡大と施設利用率の向上を図り、周年栽培を確立している。その結果、年間延べ栽培面積は約8,500㎡・出荷苗数約30万ポットの大規模経営となっている。
- ③花壇用苗の播種から育苗までは温湿度等の環境が安定している美咲町の柵原鉦山跡の坑道を利用しており、周年的に安定した良質な苗の確保を実現している。
- ④花壇用苗の販売は約9割が花き市場への出荷であり、出荷先は岡山市をはじめ県外の広島、京都、名古屋の4ヶ所となっている。そして、残り1割が地元直売所、花き店等である。
- ⑤水稲は全量単価の高いコシヒカリを栽培しており、防除と乾燥・調製はJAに委託し、JAに出荷している。また、黒大豆もJAに出荷している。
- ⑥当農園では地域の高齢化・担い手不足に対応して、公民館や老人ホームでの花壇用苗の植栽・除草管理、集落道の草刈等を無料で実施するなど、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。



施設内の花壇用苗(事業所提供)



黒大豆の播種(事業所提供)



老人ホームでの花壇苗の植栽(事業所提供)



公民館の花壇の管理(事業所提供)

表 主な作目の作業内容と役割分担及び作業の工夫点等

	作業内容	播種	ポット挿し	ポットの土入れ	苗の水通し	苗の植込み	施肥(固形肥料)	花の切り込み	花集め花組み	かん水		
	花	作業時期	4回実施			4回実施						
	使用機械	手作業		近隣の福祉法人に委託								
	職員	○	○		○	○	○	○	○	◎		
	利用者	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	○		
花	利用者が行う作業と工夫点等	①種類は10数種、播種は年4回であり、量的には8～9月期が多い。播種期別の主な種類は、1～3月にパゴニア、4～7月にワキョウソク、ニチネツク、マリゴールド、8～9月にワキョウソク、パンジー、ビオラ、プリムラ(苗購入)、12～2月にベチニアである。②ポットの土入れは適期作業が要求されるため、近隣の福祉法人に委託している。③施肥は利用者の作業性を考慮し、大粒の固形肥料を使用している。④かん水は注意が必要なため、職員が担当している。										
苗	作業内容	花寄せ	苗植え	ハウスに運び込み	運搬納品	草抜き	ポット片付け	ハウス片付け	トレー洗浄・消毒	ビニール張り		
	作業時期	4回実施										
	使用機械			人力	トラック							
	職員	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎		
	利用者	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
苗	利用者が行う作業と工夫点等	⑤運搬・納品では岡山市市場、地元直売所等は職員が行い、県外市場は運送業者に委託している。⑥トレーの洗浄・消毒は殺菌剤の使用に注意が必要なため、繰り返し指示している。⑦ビニール張りでは、若い人を主体に体力や性格を考慮している。⑧作業は、利用者の特性(身体障害・自閉症者は苗の植付けが中心)にあわせて実施している。										
黒大豆	作業内容	耕起	畝立	播種	補植(2回)	畝間除草	防除	収穫	乾燥	脱穀	選別	出荷
	作業時期	6月	6月	6月	6月	7・8月	7・8月	1月	1月	2月	2月	2月
	使用機械	トラクタ	トラクタ	播種機・人力	人力	人力	動力噴霧器	ハサミ	島立て	脱粒機	人力	トラック
	職員	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎
	利用者		○	◎	○	◎		◎	◎	○	◎	○
黒大豆	利用者が行う作業と工夫点等	①播種は利用者が人力で行い、職員が種子を確認をしている。②除草は利用者が株元、畝間を手で取り、職員が確認している。③収穫は株元をハサミで切っているが、負担が大きいため、3人1組で交替しながら行っている。④機械作業は、原則として職員が行っている。										

注)「◎」は主担当、「○」は補助者である。

## 農福連携の効果とポイント

- ①栽培施設の周年的利用による花壇用苗を基幹とした大規模施設花苗・水稲等の複合経営を確立し、利用者の就労機会の拡大を図っている。
- ②作業は可能な限り細分化・単純化し、利用者1人当たりの作業数を少なくするとともに、利用者の障害特性に応じて作業を分担している。また、利用者の精神・肉体的負担を軽減するために、作業中の休憩も多く(特に、夏季は1時間毎)取り入れている。このことは、利用者の長期・安定的就労につながっている。
- ③花壇用苗は、ほとんどが市場出荷で出荷市場も固定しているため、販路が安定している。また、県外市場への出荷は、運送業者に委託し出荷作業の負担を軽減している。
- ④地域でのボランティア活動(公民館等の花壇用苗の植栽・管理、集落道の草刈等)により、地域に貢献することで知り合いが増え、農地が借りやすくなっている。この結果、遊休農地等の利用で地域農業の維持・発展に寄与している。



# 福祉事業所と連携した農作業の見直しと作業マニュアルの作成

朝空ファーム (赤磐市西中)  
https://www.instagram.com/asasora\_farm/

視察受入れ 可

## 取組の契機と経過

- 朝空ファームの経営主は、2020年に50歳で会社を退職し、実家の農業(桃、水稲作)を継承した。同年に岡山県社会人農研修及び農福連携技術支援者育成研修を受講した。
- 2021年に岡山県農福連携サポートセンター(以下、「農福連携SC」)が行う「お試しノウフク」に参加し、障害者就労継続支援B型事業所 作業処しあわせの家の利用者に桃の袋かけの一部を依頼した。2023年、桃の摘果

の一部を同事業所に依頼した。  
③基幹作物の桃及び水稲の農作業の少ない時期の就労機会を確保するため、2021年、遠隔の耕作放棄地を借り受けて黒大豆の栽培に着手した。作業処しあわせの家にいくつかの作業の一部を委託できたことから、2022年、黒大豆の栽培面積(一部は枝豆収穫)を拡大した。

## 経営の概要と特徴

- 朝空ファームは、経営主夫婦、子、両親による5人の労働力で、桃(50a)、水稲(60a)、黒大豆(150a)の複合経営を営んでいる。黒大豆の栽培は、自宅から約30分の山間地域の元耕作放棄地約45筆を借りて実施している。枝豆は農産物直売所、その他の農作物は主にJAに出荷している。
- 自家栽培の野菜や米を使ったスープなどを地元の祭りやマルシェ、岡山市内の朝市に出店するなど消費者と積極的に関わっている。
- 作業処しあわせの家に農作業の一部を委託する他、農福連携SCのサポーターとして農福連携の推進を支援している。また、子供食堂に食材を提供するなど福祉活動に積極的に取り組んでいる。
- 作業処しあわせの家に委託する作業は、桃の予備摘果、

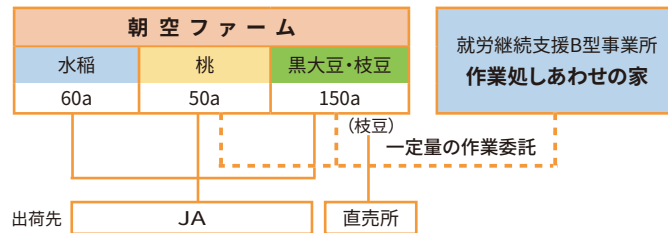


図 朝空ファームの営農概要

袋かけ(5万袋のうち3千袋を委託)、黒大豆の施肥や播種、枝豆の選別、黒大豆の収穫、選別、圃場のマルチ除去の一部など比較的時間を要する作業である。各作業の利用者は車による移動があるため、3~5名である。  
⑤施設から離れた遠隔圃場では、障害者が安心して作業に取り組めるように、クラウドファンディング(返礼は自家農作物)によりトイレを整備している。



桃の袋かけ



黒大豆枝豆の収穫



クラウドファンディングで設置したトイレ

表 主な作目の作業内容と委託作業

	作業内容	施肥	土壌改良	せん定	防除	摘蕾	摘果	袋かけ	新鞘管理	収穫・出荷
桃	作業内容									
	作業時期	10月	10~12月	12~1月	3~6月	3~4月	5~6月	6月	5~6月	7~9月
	委託作業						○	○		○(箱折)
	作業場所等						自宅圃場	自宅圃場		施設
黒大豆・枝豆	作業内容	堆肥散布・耕転	石灰・基肥散布	耕転・畝立マルチ張り	播種	枝豆収穫調製	黒大豆刈取	脱穀機械選別	マルチ片付	2次選別
	作業時期	2~3月	3,5月	5月	6月	9~10月	12月	1月	1月	1月
	委託作業		○		○	○(選別)	○		○	○
	作業場所等		遠隔圃場		遠隔圃場	施設	遠隔圃場		遠隔圃場	施設

注:太字は作業時間の比較的多い農作業を表している。

## 農福連携の効果とポイント

- 朝空ファームでは、「外部への作業委託により、仕事に張り合いや緊張感が生まれ、漫然と行っていた作業の問題点が見え、作業工程の明確化と工夫を行う意識が生じる」ことを最大の効果と認識している。
- また、桃の摘果や袋かけ、枝豆や黒大豆の収穫と選別など、繁忙期や手間を要する作業が軽減され、営農規模の拡大が図られている。
- さらに、枝豆の選別委託(2粒以上の莢、1粒莢、粒なしに選別)による品質向上と、黒大豆の2次選別(機械選別後の規格外品からの商品選別)による出荷量の増加が図られている。
- 地域貢献面では、福祉事業所と連携した黒大豆栽培により、農家の高齢化等により管理できなくなった山間地域の耕作放棄地150aが活用されている。
- また、事業所と連携した桃の袋かけ作業の取組を通じて、農福連携SC、岡山県と協力して「桃袋かけ作業 マニュアル」が作成され、福祉事業所で活用されている。
- 農福連携を円滑に進めるポイントとして、新規作物の委託作業および条件面では、小面積で実施し必要な

作業労働(作業内容、時期、作業時間)と収量性・収益性を把握したうえで、委託可能な作業・作業手順・作業量・作業料金を事業所に提示し、実践しつつ改善を図るなど、段階的に取り組むことを心掛けている。  
⑦ポイントとなる作業面では、事前説明と練習を行い、簡単にできることから着手し、正確な作業を身につけてもらう。作業習得後も、安全性に配慮するとともに、適度な休憩等を取りつつ作業精度の維持や意欲の向上を保ち続けるよう配慮している。  
⑧作業環境面では、清潔感のあるトイレや休憩所等を整備し、安心して施設外就労に就けるよう配慮している。

### もも袋かけ作業 マニュアル



### 作業処しあわせの家 管理者の声

作業処しあわせの家(利用者29名)では、縫製やフルーツキャップ、フレコンバックの折畳み作業など、単価の低い内職的な作業が多いなかで、朝空ファームの委託作業は屋外作業が多く、利用者の気分転換や運動不足解消、工賃の向上につながることを評価している。



# 笠岡湾干拓における 高糖度イチゴのブランド化の実現

一般社団法人未来幸路 多機能事業所 Happy come come (笠岡市神島)  
https://www.instagram.com/happy.come2/

視察受入れ 可

## 取組の契機と経過

- ①イチゴ農園Happy come come園主は、医療機関で介護士として勤務していた経歴がある。自身の子供に生まれてすぐに障害があることがわかり、子供の将来、家族や自身の今後の在り方について改めて考えていた2015年頃、農福連携の事例を知った。イチゴによる農福連携の可能性を感じ、一念発起して就農準備を始めた。
- ②就農準備期間では、平日は県外の農業大学校で学業に専念し、週末は家族が暮らす自宅(笠岡市)に戻り介護のアルバイトに従事した。その後、先輩農家の農園での実習や体験を経て、2017年に笠岡市カブト東町にイチゴ農園を開設した。2020年10月には笠岡市神島に一般社団法人未来幸路を開設し、2020年12月に多機能事業所Happy come comeを開所した。さらに2021年には園主の妻がイチゴジェラート店LUV'S FACTORY LUNAを開店し、連携を図っている。
- ③多機能事業所Happy come comeには、就労継続支援B型事業、就労移行支援事業、日中一時支援事業があ

- る。農福連携の取組は、主に就労継続支援B型事業の利用者がイチゴ農園(Happy come come)及びイチゴジェラート店(LUV'S FACTORY LUNA)に施設外就労する形で行っている。
- ④就労継続支援事業は重度の障害者が利用可能なB型としているが、利用者の能力に応じて適切な工賃を出す仕組みで、低い人で時給100円台、高い人で時給1,000円となっており、1日当たり5~6人が利用する。就労移行支援事業は、現時点で利用者はいないが、今後、B型事業でステップアップした後の受け皿として位置づけることを目指している。
- ⑤2022年2月には、日中一時支援事業所(すば一つ楽習館はっぴいかむかむ)を開所し、B型事業利用時間後や特別支援学校に通う生徒の放課後の居場所として、スポーツ学習の場を提供している。スポーツをすることで、生涯生活の充実になることと就労に必要な体力向上や判断力、協調性、社会性などの向上に大きく貢献している。

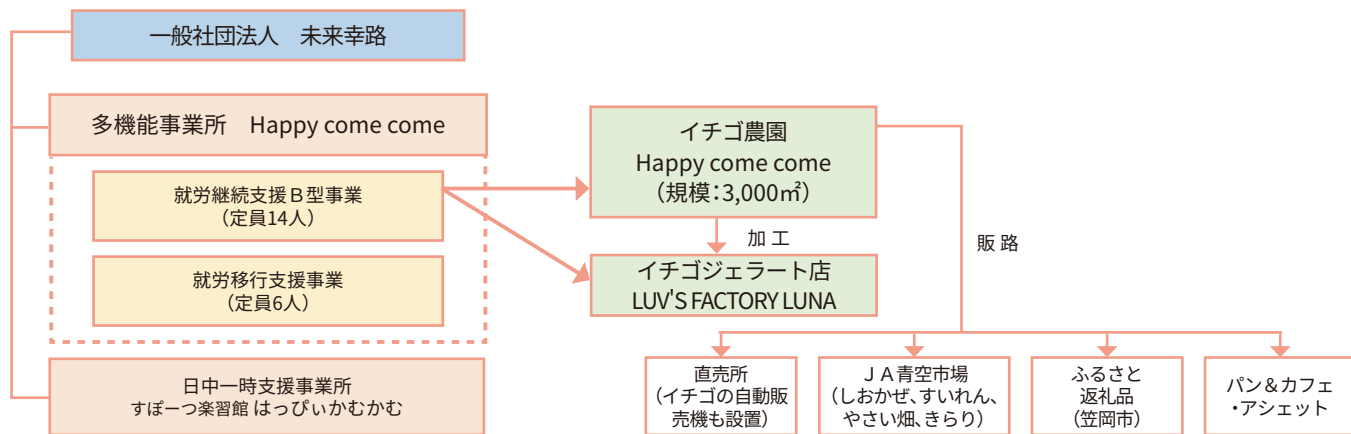


図 組織体制



苗運び(事業所提供)



定植(事業所提供)



葉かき(事業所提供)



イチゴ商品(facebookより)

## 経営の概要と特徴

- ①イチゴの栽培面積は30a(ハウス3棟)あり、すべて土耕栽培である。主力品種はおいCベリー、よつぼし、月の雫であり、その他に、あきひめ、恋みのり、紅ほっぺ、星の煌き、ゆめのか、かおりの、空音を栽培している。商品は全て「Princess ROUGE(プリンセスルージュ)」というオリジナル商品名で販売している。完熟して収穫するため高糖度である点の特徴である。
- ②販路として、JA青空市場(「しおかぜ」、「すいれん」、「やさしい畑」、「きらり」)、笠岡市ふるさと返礼品、地元パン屋(パン&カフェ・アシエット)がある。また、観光農園の運営やジェラート店LUV'S FACTORY LUNAへの原料提供のほか、一般社団法人未来幸路の敷地内に直売所を開設し、イチゴ(生食用)の自動販売機を設置して販売している。
- ③イチゴの栽培作業における利用者の主な作業として、親株除去、ポットへの土入れ、水やり、草取りのほか、ハウス内の清掃作業を割り当てている。Happy come comeでは完熟した果実を出荷するため、収穫から荷造りでは手指に繊細な動きを要するため、この工程は職員が担当している。
- ④また、定植の主担当は職員であるが、定植までの行程(苗を→運ぶ→薬剤に浸す→引上げる→運ぶ→等間隔に置く)や、定植後のポット回収・洗浄といった中間作業は利用者が担当し、利用者と職員が共同作業を行うことにより、作業の効率化を図っている。
- ⑤直売所やジェラート店での販売業務も一部の利用者が担当しており、接客を通じて利用者が地域住民とコミュニケーションを図る機会が創出されている。

表 作業の役割分担及び作業上の工夫点等(B型)

作業内容	親株除去	ポットへの土入れ	定植	ランナー整理・葉かき	水やり	草取り	病害虫防除	葉面散布
職員(人)	2	-	2	2	-	-	2	2
利用者(人)	4	4	4	-	2	4	-	-
役割 <sup>注)</sup>	◎	◎	○	-	◎	◎	-	-
作業内容	収穫	選果	計量	バック詰め	セロハン貼り	箱詰め、結束、荷造り	落葉の掃除(圃場内)	掃除(圃場外)
職員(人)	2	2	2	2	2	2	-	-
利用者(人)	-	-	-	-	-	-	4	4
役割 <sup>注)</sup>	-	-	-	-	-	-	◎	◎
作業上の工夫点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各利用者の特性を踏まえつつ、「この仕事しかできない」と決めつけない。</li> <li>・「できないことをどうすればできるようになるか」という観点で作業を割り当てている。</li> <li>・「定植」の主担当は職員であるが、苗運びや定植後のポット回収・洗浄等の中間作業は利用者が担当し、共同作業により作業効率の向上が実現している。</li> </ul>							

注) 「◎」は主担当、「○」は補助者である。

## 農福連携の効果とポイント

- ①選果やバック詰め以外の作業マニュアルは敢えて作成していない。利用者の個別具体的な課題を見極めた上で、「できない」と決めつせず、「どうすればできるか」を各利用者の特性や個性に応じて考え、各利用者の作業範囲を増やしている。
- ②特別な技術のみではなく、日常的な出来事(例;静かに作業できる等)に対して、褒めたり感謝したりする言葉か

- けをして、利用者が自己肯定感を得られる機会を増やし、自然な形でソーシャルスキルが身に付くような対話を心がけている。
- ③また、日中一時支援事業でのスポーツ学習は、居場所としてのみならず、体力づくりや動作改善としての効果もあり、イチゴ栽培時の作業効率の向上に結び付いている。



# 一般就労を目指した 稲作・野菜・作業受託の取組

就労継続支援A型事業所 青空ワークス (津山市国分寺)

<https://www.uguisuen.jp>

視察受入れ 可

## 取組の契機と経過

- 1973年、社会福祉法人 鶯園は主に介護事業を運営する法人として、さらに1980年には主に障害者支援施設を運営する法人千寿福祉会が設立された。2023年、50周年を機に2つの法人が統合され、現在では、岡山県北エリアと神戸エリアで介護・障害者支援・保育事業を幅広く展開している。
- 2017年、青空ワークスは介護施設に隣接して就労継続支援A型事業所として設立された。主な業務は、介護施設における清掃・洗濯・シーツ交換と稲作を中心とした農業関係の2本柱である。
- 青空ワークスの設立前から、同法人ではグループホームとして利用する住宅とセットで農地を借り受け、管理してきた。2019年、青空ワークスでは法人の農地管理作業を受け継ぎ、稲作・野菜栽培 (0.4ha) を開始した。
- 2020年からは農機具会社 (鏡野町) からの働きかけが契機となり、水稻育苗の生産・配送の業務を施設外就労として請け負っている。

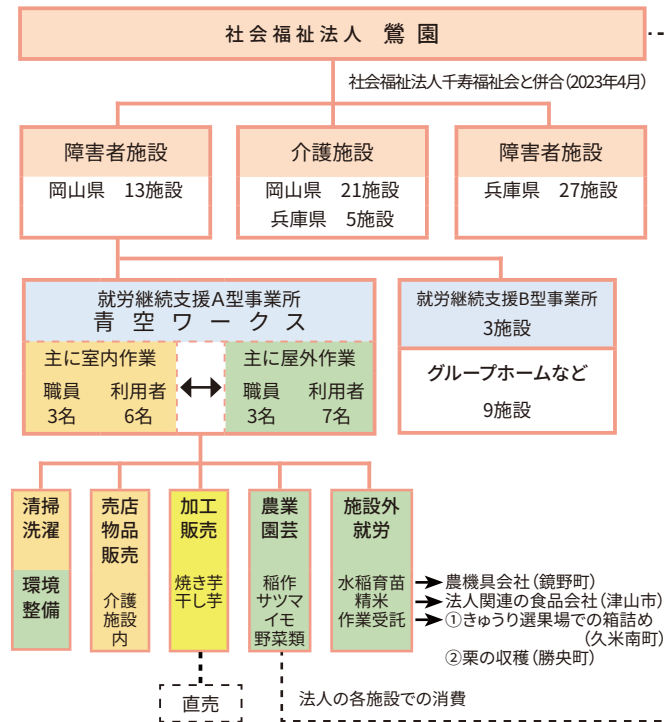


図 組織体制と主な業務内容

## 経営の概要と特徴

- 青空ワークスでは介護施設での作業と農業関係の作業に取り組んでいる。農業関係の作業割合は、稲作 (3.2ha、育苗6,200箱、精米40tを含む) 5割、野菜類 (0.4ha) 2割、農産加工1割、施設外就労 (きゅうり選果: 延べ18日、栗収穫: 3日、その他: 10日) 2割程度となっている。米、野菜類は法人内の各施設に供給して

- おり、焼き芋などの加工品は直売が中心である。
- 水稻育苗 (7品種) では、農家 (50戸程度) に出来上がった苗の引渡や配達も行っている。接客対応を利用者だけで行うことがあるので、品種・箱数・農家名を間違えないように、表示カードの利用、育苗箱の配置方法 (1列10箱) を工夫している。



播種作業 種もみは指導員が担当



フォークリフトを上手に操作する利用者



苗箱を指導員に手渡す利用者たち



もみすり作業 各自の役割分担で作業実施中

- 稲作では、大型機械のオペレータは原則として指導員が担当しており、利用者は補助的な作業が中心となる。例えば、田植作業では、利用者は主に苗箱への薬剤散布、苗箱や肥料の積込み、補植作業を担当している。
- 収穫した米は保冷倉庫で保管し、週1回800kg精米して法人内の各施設に供給している。
- 利用者の作業は稲作が基幹であるが、年間を通じて農

- 作業が継続できるように、サツマイモの栽培と焼き芋・干し芋の加工・販売、作業受託としてきゅうり選果場での箱詰め、栗収穫などにも取り組んでいる。
- 室内作業と屋外作業では作業強度が異なることから、屋外作業では半日150円の割増しがある。さらに、機械作業 (トラクター、フォークリフト、コンバイン、車両) には半日250円が加算される。

表 稲作作業での指導員と利用者の作業分担

作業名	育苗<施設外就労>					本田管理						精米<施設外就労>	
	5,000~6,000箱 (播種回数10~12回) 鏡野町					3.2ha (津山市 2.2ha、鏡野町ほか 1.0ha)						週1回、800kg	
種子消毒 芽出し	播種	緑化・硬化 箱並べ	灌水	出荷 配送	耕起 代かき	田植 施肥	電機 設置	農薬 散布	草取り	収穫 運搬	乾燥 もみすり	精米 袋詰め	運搬
タンクなど	播種プラント フォークリフト			軽トラック	トラクター	施肥 田植機		ドローン (委託)	人力 刈払機	コンバイン トラクタ	乾燥機 もみすり機	精米機 計量器	軽トラック
指導員	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		○	◎	○	○	○
利用者	○	◎	◎	◎	○	○	◎		◎	○	◎	◎	◎
備考	品種管理 は指導員	箱置き、土入れ、 播種済み箱の運搬 (フォークリフト) は利用者	箱並べは利用 者、最終確認 は指導員 (品種名、箱 数等のカード 活用)			薬剤散布、 肥料と苗 の積込み、 補植作業 は利用者	太陽光パ ネル、コン トロール ボックスの 設置は指 導員	近隣の大型農家に 作業委託	室内作業も 参加	水田四隅の 手刈り、その 株の脱穀、 運搬・乾燥 機への搬入 は利用者	計量、袋の 結束、運搬 は利用者	計量、袋 の結束は 利用者	

注)「◎」は主担当、「○」は補助者である。

## 農福連携の効果とポイント

- 稲作関連の施設外就労と野菜栽培、農産加工を組み合わせることにより、年間を通じて就労機会を確保するとともに、利用者が意欲的に働けるように屋外作業や機械作業での賃金割り増し制度などの配慮がなされている。その結果、A型事業所の県平均よりも1割程度高い賃金となっている。
- 農作業には、栽培過程に応じた多くの作業、フォークリフトなどの機械操作、他者との共同作業などがある。このような農作業の特性は、精神的な自立や仕事に対する自信につながり、一般就労に向けた適応能力の向上に有効である。
- 一般就労に役立つスキルアップを図るため、利用者の希望によりフォークリフト運転講習や刈払機安全講習などの受講機会を与えている。
- 精神障害の利用者が多いことから、突然の指示や次に行う作業が分からないことでパニックに陥らないよ

- うに、遅くとも前日までに作業の流れを説明している。また、稲作の作付面積が3.2haと大きいことから同じ作業を繰り返すことが多く、初めて参加する利用者でも作業に慣れることができる。
- 利用者の担当作業を固定しないで、介護施設での室内業務と屋外での農作業の双方に従事している。主に室内作業に従事する利用者も草取り作業など軽作業には参加し、逆に屋外作業を好む利用者も室内作業を行ってもらう。異なる作業を組み合わせることにより、利用者の気分転換、作業能力の向上に役立っている。
- 社会福祉法人が行ってきた農地管理に積極的に取り組むことにより、地域農業の担い手となっている。また、法人が障害者施設や介護施設を多数運営しているメリットを活かして、グループ内の施設へ精米などの農産物を供給している。



# 自然農法に取り組む 農業者とともに歩む福祉事業所

就労継続支援B型事業所 ワークサポート(美作市福本)

http://hyakusyomon.com/

視察受入れ 可

## 取組の契機と経過

- ①当事業所の代表者は、1998年に礫山企画を設立し縫製業を営むなかで、製品の包装・袋詰めなどを地元の就労継続支援A型事業所に施設外就労として委託していた。
- ②その取組で障害者への理解も深まり、市役所等の勧めもあり地域にB型事業所がなかったことから、2013年6月に自ら特定非営利活動法人 ワークサポートを設立し、同年12月には障害者就労支援B型事業所 ワークサポート(英田事業所)(定員20名)を開設した。
- ③当事業所開設当初、利用者7名で代表者の農地3aを使用して野菜栽培を開始し、その後、行政や支援学校の紹介等で利用者が順調に増え、野菜に加えて、水稻、黒大豆、もち麦等の新規作物を導入した。また、礫山企画は生産された農産物の付加価値を高めるために加工・直売にも取り組んでいる。
- ④利用者の増加に伴い2016年3月に美作事業所を開設し、定員も40名となった。
- ⑤礫山企画代表者は、一層の付加価値を高めるために2019年に6次産業化の認定を受けるとともに、地域の協力や農地中間管理機構を通じて農地の取得や利用権設定を進め、2020年には認定農業者となり、経営規模を5ha(所有地2ha、借地3ha)(2023年)に拡大するとともに、生産から加工・販売の一貫体系を確立した。

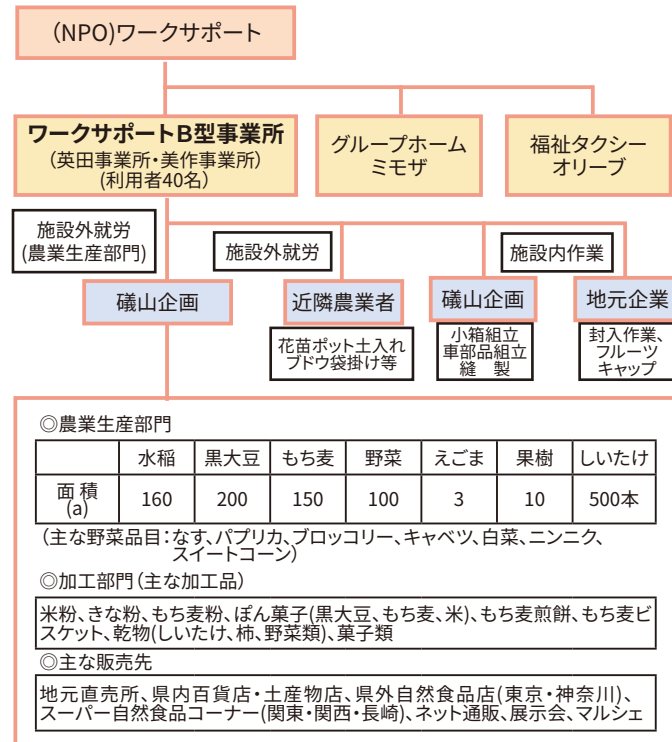


図 組織体制と経営概要

## 経営の概要と特徴

- ①礫山企画は、農業はもとより、堆肥を含めた肥料も全く使わない徹底した自然農法栽培で安全・安心を強みとした農産物の生産を行い、それらを加工・販売する6次産業化に取り組んでいる。ワークサポートは、農産物の生産・栽培管理の全てを施設外就労として受託している。現在、当事業所の収入の約3割を農業生産部門の施設

外就労で得ている。

- ②自然農法栽培は除草などに多大な労働力を要するが、ワークサポートが作業を受託することで大規模な自然農法栽培で安定生産を実現している。具体的作業として水稻の除草は利用者が手押しの除草機で行っている。また、黒大豆や野菜などの畦間はワークサポートの職員が



手押し除草機で除草作業(事業所提供)



自然農法栽培のなす収穫



麦踏作業(事業所提供)

- 機械で刈り、畦は利用者がノコギリ鎌やハサミで年間4~5回手刈りし、緑肥として土づくりに活用している。
- ③礫山企画以外にも近隣の農業者等から花苗ポットの土入れ、ブドウの袋掛け・新梢管理、メダカ養殖の水槽清掃・水換え作業などを施設外就労として受託し、地域農業を下支えしている。
  - ④機械作業は指導員が行うが、それ以外の農作業は利用者4名(収穫時は6名程度が加わる)が担当している。
  - ⑤礫山企画代表者は、2019年に「美作百姓もん」として商標を登録するとともに、自然農法で生産した農産物を使ったオリジナルの6次化商品を開発し、販路の開拓を

- 積極的に進めている。取り分け、東京に礫山企画の社員1名を駐在させて関東方面への販路開拓に力を入れるとともに、ホームページやSNS等で幅広いPRと有利販売に努め、経営の安定化により利用者の工賃向上を図っている。
- ⑥当事業所では、地元の小学生や幼稚園児を招待し収穫体験を行うとともに、ふる里祭への参加や事業所の食堂を活用してカレー、焼きそば等を提供する地域食堂を行うなど利用者と地域の方とのコミュニケーションを図ることに積極的に取り組んでいる。

表 主な作目の作業内容と役割分担及び作業上の工夫点等

水稲	作業内容	播種	育苗	苗運び	田植え	苗箱洗い	除草	収穫	乾燥	選別	袋詰め	精米	販売用袋詰め
	作業時期	5月	6月	6月	6月	6月	6~8月	10月	10月	10月	10月		
使用機械	播種機	人力	人力・軽四	田植機	人力	除草機	コンバイン	乾燥機	選別機	計量器	計量器		
利用者	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
職員	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
利用者が行う作業と工夫点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗中の水やりは、2人組で苗床の両側から均一に散水するようにしている。(1人に任せない。)</li> <li>・除草は、除草剤を使わず、利用者が手押しの除草機で行っている。その際、暑い時期であることや水田で足を取られることなどから往復する毎に交替するようにしている。</li> <li>・袋詰めは、自動計量器で30kgとなった紙袋を利用者が口を閉め、パレットに積んでいる。</li> </ul>												
なす	作業内容	マルチ張り	定植	支柱立て	誘引	葉かき芽かき	除草	収穫	選別	袋詰め	シール貼り		
	使用機械	トラクタ	人力	人力	人力	人力	モア人力	人力	人力	人力	人力		
利用者	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
職員	◎	◎	○	◎	○	◎	○	○					
利用者が行う作業と工夫点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除草は、畦間は広くし職員が自走式のハンマーナイフモアで刈り、畦は利用者がノコギリ鎌やハサミで年間4~5回手刈りし、緑肥として土づくりに活用している。</li> <li>・収穫したナスは麻袋に入れ、傷つかないように注意している。</li> <li>・選別、袋詰めは利用者の担当を決め2人組で行っている。</li> </ul>												

注)「◎」は主担当、「○」は補助者である。

## 農福連携の効果とポイント

- ①自然農法栽培は多大な労働力を要するが、利用者との連携により大規模な自然農法栽培で安定生産を実現している。
- ②徹底した自然農法栽培で安全・安心を強みとした農産物生産を施設外就労として受託し、オリジナルな高付加価値商品の開発、加工・販売を行う6次産業化に貢献している。
- ③商標登録を行い、地元はもとより大消費地の関東・関西等への販路開拓に積極的に取り組むとともに、ホームページやSNS等を活用して有利販売に努め、利用者の工賃向上を図っている。
- ④利用者が播種から育苗、植え付け、収穫までを行った商品が店頭で並び売れていく様子を見て喜びと達成感を得られており、モチベーションの維持・向上が図れている。
- ⑤毎朝、利用者全員に1日の一連の作業の説明と安全確認を行っている。また、利用者には機械を使用させず、1時間毎に休憩を取るなど安全を第一としている。



主な加工商品(事業所提供)